

それからマンスフィールド財団フェロー。これは米国の政府職員に対して1年間ワシントンD.C.で行われる日本語研修の仕上げとして当協会です。その後研修生は日本政府の機関、国会、民間企業などで1年間研修をします。また、イタリアのトリノ大学や豪州のモナシュ大学など現在は6大学が、当協会での日本語授業をもって単位認定を行っています。このIJSPには06年度までで18カ国、38グループ、2,484人が参加しています。

在住者向けの日本語教室も含め、日本語授業を担当しているのは、専任講師である私と石川県日本語講師会の24人です。講師会は81年に設立されて会員数が24人、教育歴が20年以上の方が3人、15年以上の方が7人など、非常に経験豊富な方が多いです。入会資格も経験が問われるなどかなり厳しいものとなっております。

こうやって見ていただくと、県の協会の日本語教育プログラムとしては歴史も長く、規模の大きなものであるということがお分かりいただけると思います。そして、石川県国際交流協会の日本語教室の運営方法やカリキュラムは、石川県内の他地域のモデルとして機能している場合も見られるようです。

## ■東京都足立区

**野山** 続いて、東京都足立区の現状についてこちらの方から少し先にご紹介しておきたいと思います。足立区は、今回言われている分散地域とはまた少し違う状況のところですが、区全体からすると、ちょうど集住地域と分散地域の両方の特徴を少しずつ持ちながら動いている地域のひとつです。その中で区民課に多文化共生という担当ができていない数少ない区です。鈴木さん、よろしくお願いします。

**鈴木圭子** 足立区区民課の多文化共生担当の鈴木です。足立区の日本語ボランティアグループの取り組みということでお話をさせていただきたいと思います。今日は、皆さんと一緒に勉強するつもりでやってまいりました。よろしくお願いいたします。

まず、足立区の日本語ボランティアグループですけれども、大変歴史が古い。一番古いところでは21年目になります。どうしてそんな古い歴史があるかということについては、後ほどお話をさせていただきたいと思います。

足立区の特徴ですが、外国人の数が非常に多いということが挙げられます。大阪の生野区、東京都新宿区、静岡県浜松市に次いで全国で第4位です。区の人口

は、だんだん日本人が減っていくのに対して、2050年には外国人は今の2万人から7万人まで増えると予測しております。今、外国人が占める割合は全体の3.3%ですが、13%にまで増えると予測しております。こうなりますと、お隣は外国人というのは当たり前の状況になってきます。こういう状況の中で自治体や地域に求められるのは、外国人も地域を支え合う同じ構成員であるという認識です。

足立区は、04年に「足立区新基本構想」を策定いたしました。その経緯ですが、区民の手で新しい基本構想をつくろうということで、「新基本構想策定区民委員会」を設置いたしました。これらのグループというのは9つのグループからなっています。小・中学生、高校・大学生、勤め人、自営業者、子育て中の親、要介護者を家族に持つ人、高齢者、外国人、団塊の世代、です。この9つのグループの中に外国人のグループが入ったというのは非常に大きなことです。その外国の方々からいろいろな提案がなされました。外国人の政治行政への参加を拡大しよう、差別を禁止する条例をつくろう、外国人就労、定着を区として応援してほしいなど、さまざまな提案がなされました。「足立区新基本構想」ができて、これを受け当係が05年に「足立区多文化共生推進計画策定懇談会」を開催いたしました。メンバーは公募区民、学識経験者、関係団体の代表、外国人、あと職員です。

幸いなことに、この懇談会の委員長に同じ時期に総務省で多文化共生に関する審議会の委員長であります教授をお迎えできましたので、タイムリーに国の情報が入ってまいりました。その後中間案を発表し、パブリックコメントを実施しました。庁内会議、懇談会の議論を経て、「足立区多文化共生推進計画」が05年3月に策定されました。

この計画には、4つの柱があります。コミュニケーション支援、生活支援、多文化共生の地域づくり、多文化共生施策の推進体制整備の4本で、区政の各分野にわたる57の施策が盛り込まれております。その中で「日本語ボランティアグループの組織強化、交流」については8つあります重点項目の中のひとつとなっております。外国人にとって、日本語だけでなく日本で生活する上でのさまざまな習慣なども教えてくれる日本語ボランティアグループの存在というものはとても大きいとしております。

## ◆ 日本語ボランティア養成講座から発展

足立区の日本語ボランティアグループができるまでの話ですけれども、約23年前に足立区に女性のための婦人総合センターをつくらうという計画ができました。そして、職場団体の婦人部や各町会の婦人部など、総勢5万人ものさまざまな分野のいろいろな団体の婦人部の皆さんが、センターに向けてどのような会館にするかということで意見を出し合ったということです。その中で、婦人総合センターの運営を頭に入れた中で、日本語ボランティアの養成講座という提案がありました。ほかに女性大学や女性史編纂などいろいろな講座があった中で日本語ボランティアの養成講座は大きい柱だったということです。その後、その養成講座を受けた方々がボランティアグループを自分たちの手でつくらうということで立ち上げました。

そのころ、外国の大使館が多い港区に、外国人に日本語を教えるサークルがあったそうですが、地域でボランティアグループをつかって日本語を教えようというグループは足立区が先駆けであるということを知っています。そして、あちこちの市区町村から見学にいらっしやっただけです。その後、婦人総合センターは改称して女性総合センターとなっています。愛称は「L（エル）ソフィア」と言います。「Lソフィア」のエルはレディーの女性、ラブの愛、ライフの生活とか生涯、レッスンなどの「L」と、知性を表すソフィアというものを考え合わせた名前ということです。

区と日本語ボランティアグループとのかかわりですけれども、それまでは姉妹都市や国際交流などを担っておりました区民交流協会というところで担当していましたが、先ほどお話しいたしました「足立区新基本構想」策定のもと、在住外国人に対するいろいろな取り組みを本気でやろうということで、3年前から区民課のセクションに移り、我々、多文化共生担当が受け持っています。

年1回日本語ボランティアグループを立ち上げ、空白地域をなくそうということで、現在は15カ所となりました。日本語ボランティアのグループの皆さんは、それぞれ自主的にグループ活動をされ、発熱しているときでも外国人のために頑張っているとか、家族の理解を得られるために人一倍努力していますとか、本当に頭が下がる思いでいっぱいです。そんな中で区が後援させていただいていることは、2,000円から4,000円ぐらいかかる学習センターなどの会場の確保、施設使用料の免除手続きです。やはり足立区はスタートの時点で、日本語ボランティアの養成が女性総合センターのひとつの柱であったということが非常に大きいと思います。



次にボランティア保険の加入です。今までは加入と未加入とバラバラだったのを区民課で町会や連合会などの活動に際して加入するボランティア保険に日本語ボランティアグループの皆さんにも加入していただき、保険料を区で負担させていただいております。日本語ボランティアグループにいらっしゃった外国人のお子さんをみていただい

ている保育ボランティアにも支援をしています。1回の学習時間2時間程度の1コマにつき1,500円をお支払いしています。

このほか、15グループの代表者の連絡会議を年に4回ほど開催しておりますが、その中でいろいろな情報交換や区からの連絡事項、イベントなどの運営の協力依頼などをさせていただいております。グループによってはボランティアの数が少し足りなくなってしまったということも、最近はグループ同士で助け合ったりということが見られますので、こういったところは続けていきたいと思っております。『ようこそ足立区へ』というニューカマー向けの冊子を06年作成しました。これは110番の仕方や119番の仕方などの緊急時の対応や、日本のいろいろな行事、おはしの使い方、衣食住についてなど、基本的なことが書いてある冊子で、これも連絡会議の際に配布させていただき、ニューカマーの外国人に配っていただいております。

07年度、日本語ボランティアの皆さんから、レベルアップ講座として中級講座を開いてほしいという要望がありました。ここにいらっしゃる宮崎さんらのNPO国際活動市民中心（CINGA）にお願いして日本語ボランティア中級講座を実施いたしました。全4回で延べ159人の参加がありました。講座が終わった後に「ひとこと感想」ということで皆さんに簡単な感想を書いていただきました。その中には、日ごろ抱えていた問題点の整理ができましたとか、自分の固定観念を取り払ってみることが大切、ということや、教えるという気構えは必要ないこと、その外国人の背景や言葉に十分注意を向けて、人格をすべて認めることが大事など、基本に立ち返るいい機会になりましたという内容、感想が多くあり、次回開催を望む声がほとんどでした。

また、グループを超えた話し合いができたということも非常に良かったことで、それを受けて初めての試みとして15グループの皆さんに集まっていただいて、「日本語ボランティア全体会」を予定しており、非常に楽しみにしております。今後もグループの連携を図っていくために、「話し合い」「基本に立ち返り」「一緒に前を向く」ということを心掛けていきたいと思います。

#### ◆ ボランティア間のネットワーク化が課題

「日本語ボランティアって何ですか」「どこでどうやって活動しているのですか」「私にもできますか」などという問い合わせをよくいただきますので、「日本語ボランティアのご案内」のチラシを作成し、庁内をはじめ学習センターや図書館など、いろいろなところに配っております。日本語ボランティアに興味ある方、日本語ボランティアになりたい方はもちろんですが、日本語ボランティア活動そのものを皆さんに知っていただくためにも幅広く配っております。このチラシは大本のところはこちらで作成しましたが、連絡会議の際にボランティアの皆さんに文言などをチェックしていただきながら作りました。また、「日本語を習いたい方は3階の区民課多文化共生担当へ来てください」ということで、外国人がよく訪れます外国人登録係や国民健康保険課や庁内で黄色のチラシを配っております。外国人の相談窓口ということで、「困ったことがある人は来てください」というチラシも、目に付くところに置いております。

これからの日本語ボランティアグループの在り方ということを考えますと、ネットワークの構築ということが挙げられると思います。支援講座や中級講座を継続し、基本に立ち返ることが大切だという認識を持つということは非常に大切だと思います。ともすれば教える、教わるだけの関係になりがちなところを、お互いに基本や目的を再確認して、情報を発信し合って、地域の日本語ボランティア活動に関するものを一緒に考えて、固定させずに常に活発にしておくことが大切ではないかと思います。それからグループだけにとどまらず、グループ間で交流し、情報を共有し、相互で助け合いをすることが大切だと思います。区に対して自由に意見を言ったり、提案ができる仕組みづくりをしていくことも併せて非常に大切だと思います。今は、「区民の声（広聴はがきやメールなど）」や各種委員会や審議会などに参加するという方法もありますし、いろいろな意見を区にいただくことがすごく重要です。皆さんが一生懸命に提案してくださる意見というのは、非常に私たちの心に響きますので、ぜひお願いしたいと思います。

これからは、外国の方々にとって日本語ボランティアグループが一番の信頼で

きる、心の休まる場所となっていくような環境づくりを心掛けていきたいと思  
います。

## ■ NPO法人国際活動市民中心（CINGA）

野山 ありがとうございます。それでは宮崎さん、足立区での日本語ボラン  
ティアの支援講座のことを含めてお話をお願いします。



宮崎妙子

宮崎妙子 NPO 法人国際活動市民中心（CINGA）日本語チ  
ームの宮崎です。皆さまの中でCINGAという名前をお聞き  
になったことがおありの方、いらっしゃいますか。1人、2  
人、3人、4人。すごくマイナーですね。でも、今日この名  
前を覚えて帰っていただければうれしいです。CINGAはまだ  
小さいNPOですが、志高く大きな夢を持っています。それ  
は、今、お話がありましたような行政サイド、県だとか区  
だとかとは異なる立場から社会貢献していける、そのような  
立場に私たちはいると思います。

このCINGA日本語チームと、今、お話しいたきました  
鈴木さん、そして足立区、足立区のボランティアの方々とのお付き合いは結構長  
くなります。そういう背景から、鈴木さんたちとの協働によるボランティアのた  
めの講座についてお話したいと思います。講座についてお話しする前に、まず  
CINGAについてご説明いたします（CINGAのHP、[http://www.cinga.or.jp/  
index.html](http://www.cinga.or.jp/index.html)参照）。

CINGAは2004年10月に設立され、その目的は「日本で暮らす外国人の支援  
事業を市民活動として行う。外国人にとって住みやすい日本社会構築を目指す。  
日本人市民の多文化共生意識を育む」ことにあります。そしてその特徴は、専門  
性を持った市民の集まりであるということ。企業経営者、大学教授、弁護士、税  
理士、精神科医、マスコミ関係者などさまざまな職種の方が名前を連ねています。  
私自身も日本語教師です。このようなCINGAの活動のひとつに「CINGA日本語  
チーム」があり、地域の日本語教室ボランティアのための講座を企画、実施して  
います。行政が支援するボランティアベースでの日本語教室の目的とは何なのか、  
そこには個々人の自己実現のためだけではない目的が、社会的な目的があるので  
はないかと考えますが、CINGAの日本語教室ボランティアのための講座という